

今年度の指導の重点	津山っ子の学びを高める “3つの提案” 6つの取組
(1)心の教育の充実 ・自己肯定感、自己有用感を高めるとともに、人間関係力を育てる。・「高倉のあたりまえ」を通して規律正しく協調性のある子どもを育てる。 (2)たしかな学力の育成 ・主体的に学ぶ態度を育て、基礎学力の定着を図る。・「聞く力・書く力・伝える力」を身に付けさせる。 (3)健やかな体の育成 ・運動の機会を充実させ、体力向上を図る。・保護者とともに望ましい生活習慣の定着を図る。	□学習や生活のルールを全教職員で共有して児童生徒や保護者へ提示している 当初【 A 】 年度末【 】 □授業の中で学習のめあてを持たせめあてについて振り返る場を設定している 当初【 B 】 年度末【 】 □言語活動充実のために話し合う活動を大切にしている 当初【 B 】 年度末【 】 □学習のねらいに応じてICT活用等による多様な学習を工夫している 当初【 B 】 年度末【 】 □授業で学んだことが振り返ることができるような家庭学習の仕方を提示している 当初【 C 】 年度末【 】 □家庭地域と共に育てるためにHPや通信等で発信している 当初【 A 】 年度末【 】

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」
 「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」|「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」
 「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

調査結果について(調査結果において明らかになったこと)	
【学力状況調査の結果】 全国(6年) ○国語・算数・理科とも正答率は県平均を下回っている。 ○国語A・Bとも「読む能力」の選択式解答の正答率は、県平均を上回っている。 ○算数の円周率や三角形の合同など図形の理解、棒グラフや帯グラフの読み取りなどの正答率は、県平均を上回っている。 ○理科の選択式解答における正答率は県平均を上回っている。 県(3~5年) ○3年は国語は、県平均と同じ。算数は、やや下回った。単位換算や見取り図の理解が必要である。 ○4年は国語・算数ともほぼ県平均を上回っている。国語の「話し合いの内容を聞き取る」「漢字を読む」「作文」などは特に良い。 ○5年は国語・算数ともほぼ県平均を上回っている。国語は「基礎」の項目が大きく伸びた。算数は「活用」の項目が伸びた。 ○「観点別」正答率分析によると、学校として共通する課題は、国語・算数とも「表現力」に課題が見られた。 ※本校の特徴的な傾向 ・6年国語B 「話し合いの参加者として、質問の意図を捉える。」本校50%(全国82.5%) ・6年算数B 「条件に合う時間を考えることができる。」本校33.3%(全国47.9%) ・6年理科 「土地の侵食について予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想できる。」本校8.3%(全国5.4%)	【学習状況調査の結果】 ○県・全国の平均より高い項目→自分や地域のよさを実感している児童が多い。 ・自分にはよいところがある。 ・先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。 ・朝食を毎日食べている。 ・地域の学習をしたり、地域の行事に参加したりしている。 ・地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがある。 ○県・全国平均より低い項目→読書や家庭学習の時間が少なく、メディアにふれる時間がかかり多い。 ・学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、読書をするか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く) ・算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えている。 ・普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをするか。「4時間以上」と回答した児童が40%おり、県平均よりかなり多い。 ・普段(月曜日から金曜日)1日当たりどれくらいの時間、スマホ等を使用しているか。「2時間~4時間」と回答した児童が20%と県平均より多い。 ○市重点項目について ①テレビ等の視聴時間・・・「1日当たりのゲーム・テレビの利用時間」3時間以上と回答した児童が6割と、県平均よりかなり高い。 ②家庭学習の時間・・・「1日について1時間未満」と回答した児童は33%おり、県の基準時間を達成できていない児童が約3割いる。 ③読書時間・・・「授業時間以外に読書を全くしない」と回答した児童が50%で全体として県平均を下回っているが、個人や学年差がかなり大きい。 ④ないこと・・・「進んでおきたい」として「上」回答した児童が90%と、県平均よりかなり高い。

成果	課題
・「落ちついた学習環境を整え、児童理解に努める」「一人ひとりの達成感、満足感を大切に」を全職員で共通理解し、実践に努めた。「自分にはよいところがあると思う」「先生はよいところを認めてくれている」の項目の肯定的な回答率が6年生・5年生とも90%超で、自己有用感や自己肯定感が高いことが伺われる。 ・「朝食を毎日食べている」は、100%であった。「地域の学習をしたり、地域の行事に参加している」「地域の大人(学校や塾・習い事の先生を除く)に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする」も肯定的な回答率が高かった。家庭や地域に支えられながら生活していることを実感していることが伺われる。 ・5年生では、「学習が好き」または、「学習が大切と感じている」児童が多い。また、「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」の肯定的回答が高く、学級の仲間を意識しながら学習ができていた。 ・5年生は4年次に、国語科では定期的なテストと運動した漢字練習等に、算数科では補充プリントを活用した反復練習に取り組み、標準スコアが国語(+1ポイント)・算数(+1.5ポイント)ともに上昇した。	・問題をイメージ化したり、話の要点を速く正確に読み取ることが難しい。それは、昨年度からの継続課題である「聞くこと」の徹底に関係していると考えられる。全校集会等の場で話を聞いたことや、放送を黙って聞いたりすることはできている。しかし、授業では興味のあることだけ聞いたり、途中で話をしたりすることが多い。まず、「しっかり話を聞く」ことを身につけさせ、大切なことを見つけたら自分の考えをまとめたりすることへと、つなげていきたい。 ・単位換算や漢字の応用(善悪感)を持っていない。かさや時間、面積を量で実感することができていないと思われる。前学年で学習したことをしっかりと復習し、現学年のとの学習のつながりを見えさせ、応用して定着させていく手立てが必要である。 ・学習したことを定着させられていない。学校や家庭で、「学習内容定着」のための機会をもつことが必要である。 ・「家庭学習の手引き」に示している家庭学習基準時間を達成できていない状況がある。 ・メディアにふれる時間が圧倒的に多く、家庭内のルールも徹底されていない様子がある。

何を(改善すべきこと)	いつまでに(成果検証の期限)	どこまで(対象と達成目標の設定)	どのように(方策)	達成状況(12月末現在)	達成度	達成状況(年度末)	達成度	次年度への改善点・重点課題
聞き方の向上	3学期末	全学年児童 聞き方「あいいうお」を徹底する	・自力解決の時間を確保し、まず自分の考えを持たせる。その後、聞き方「あいいうお」に則り、自分の考えと比べながら聞くようにさせる。	・自力解決の時間を確保し、自分の考えを持たせることはできた。 ・聞き方については不十分であったので、今後、各学年で重点目標を決めて取り組む。	C			
授業改善	3学期末	全学年児童 「まとめ」「ふりかえり」にこの時間で分かったことが書ける。	・夏季校内研修で確認した「つなげる」「深める」「広める」を意識した授業づくりを進め、全クラス授業公開をする。 ・何度でも見ることができる掲示物を活用したりするなどして、視覚的に量感をもてるようにする。また、校内での掲示を通して、系統的な理解につなげる。	・授業公開や授業改革推進委員の指導を受け共通理解し、改善の取組を継続している。 ・掲示物については、各学年で取り組んでいる。夏休みに職員研修で作業をする予定である。	C			
低学年での学習内容の徹底	3学期末	1・2年生児童 学年末実施NRT学力調査で偏差値50以上	・1・2年生の算数の時間に可能な限り支援員を配置し、複数での指導により個別指導の充実を図る。	・国語・算数の授業をTT体制で行うことで細やかな指導ができ学習意欲につながっている。 ・げんぼくんプリント、問題データベースを効果的に利用している。	B			
家庭学習の定着と充実	3学期末	全学年児童	・問題データベース等各種補充問題を活用し、苦手な問題(単位の換算、時計、図形など)に繰り返し取り組ませる。通信や掲示物等で、1人1回は紹介する機会をつくる。	・工夫した自主学習ノートを学級や廊下に掲示したり、紹介したりしている。 ・3学期からは全校で「漢字博士」(漢字の予習・復習)に取り組む。	B			

※達成度 「S:目標を大きく上回った(100%超)」|「A:目標を十分達成できた(85%以上100%未満)」|「B:目標を概ね達成できた(70%以上85%未満)」
 「C:目標をある程度達成できた(50%以上70%未満)」|「D:目標をあまり達成できなかった(30%以上50%未満)」|「E:目標を達成できなかった(30%未満)」

小中連携の取組	保護者・地域へ理解・協力を求めること
○小中間による授業公開並びに児童生徒の情報交換を行う。 ○中道中学校のテスト週間に合わせて、「チャイムスタートの徹底」をはじめ、落ち着いた学習できる教室環境づくりを共通目標として取り組む。 ○中道中学校区で、管理職、教務主任、生徒指導主事、養護教諭、事務職員ごとに定期的に連絡会議をもち、課題の共有化を図るとともに情報交換を行う。	○「家庭学習のスタンダード」や「家庭学習の手引き」を基に、自主学習の啓発を主として学級通信や学級懇談、地区懇談会で呼びかける。 ○中道中学校のテスト週間に合わせて、「生活リズムチャレンジシート」の取組をする。各家庭で「家庭学習」(お手伝い)「メディア時間」などの約束を決め、親子で話し合う時間をもつよう呼びかける。 ○10月参観日にメディアコントロールについての講演会をもち、高学年児童と保護者に参加してもらう。また、「高倉地区青少年を健全に育てる会」と連携し、就学前の保護者や児童の祖父母世代まで、広く地域内で参加を呼びかける。